

特定非営利活動法人 日本市民スポーツ海外交流協会  
令和3年度 第5回理事会 議事録

- 1.開催日時 令和3年9月22日 午後7:00～午後8:25
  - 2.開催場所 ZOOM会議
  - 3.理事総数 12名
  - 4.出席者数 6名（書面表決書4名）  
出席者（山西哲郎、宇佐美彰朗、保原幸夫、森川貞夫、小林均、黒田伸 敬称略）  
書面表決書（前河洋一、岩山海渡、鈴木良雄、菅原由大 敬称略）  
オブザーバー（山本正彦 敬称略）
  - 5.議長選任 議長として山西哲郎氏が選出された。
  
  - 6.議事の経過の概要および議決の結果
- 第1号議案 前回理事会（8月18日開催分）議事録に関する件  
保原氏から各理事に対し過日メールにて送信し、内容を確認していただいたが、特に疑義等がなかったため承認されたものとする旨報告があった。
- 第2号議案 議事録署名人の指名について  
議事録署名人として宇佐美彰朗氏と保原幸夫氏が選出された。
- 第3号議案 月次支援金について  
保原氏より、緊急事態宣言の影響緩和に係る月次支援金（7月、8月分）各20万円を受給した旨報告があった。引き続き9月分も受給できる見込みである。
- 第4号議案 2021メルボルンマラソンについて  
保原氏よりメルボルンマラソンの開催状況に関する説明があった。  
メルボルンはロックダウンが継続されているため大会は12月11日(土)、12日(日)に延期される旨、大会本部から連絡があったが、日本事務局としては特に対応はない。  
なお、毎年寄付をさせて頂いているCPEC（脳性まひエディケーションセンター）に関する情報が発信されているが、補助器具の開発および訓練により自力で3Kウォークに参加できた子どもたちがいるとのこと。次回参加時には是非会ってお話を聞いてみたいと思っている。
- 第5号議案 フリーディスカッション  
（山西）今回は前回より一歩前に進め、次の開催時にはテーマを決めて誰かにお話しただけのようなどころまで話を深めていただければと考えている。自薦他薦問わず広く候補も上げていただければありがたい。ここでの司会進行は小林さんをお願いしたい。  
（小林）了解しました。それではこれまで行ってきた理事会のフリーディスカッションから更に発展させ、次回には講師を招いてのオンライン会合ができることを目標に話し合いをお願いしたい。  
（保原）適切なコロナ対策を講じるためには免疫学をよく理解することが必要と感じ、この

1年、素人なりに勉強を続けているが実に面白い。その中で鈴木さんから紹介された大阪大学免疫学フロンティア研究センターの審良先生や坂口先生の本は難しい内容を実にわかりやすく解説していてとても参考になった。是非、鈴木先生にご紹介頂ければと思う。

もう一つは、スポーツ庁の方の話。スポーツ庁の掲げる施策の中にスポーツを通じた海外との交流があるが、私たちの協会の活動と重なる。

(森川) それはスポーツ基本計画の中味そのもの。ただ、スポーツ庁の施策は内容が貧弱でおめでたい位のレベル。体操や一駅歩く人が増えれば即スポーツ振興が進んだと考えている。

(保原) 以前、セミナーの特別講演で鈴木前長官、室伏現長官の話を聞いた時も、スポーツ振興についての話は美しいが、実際の実施計画が見えないと感じた。

(森川) 保原さんの二つのアイディアに賛成。ただ、実際 Zoom 配信時に参加者の範囲をどうするかなど、考える必要あり。

(山西) それは実施の方法論なので、Zoom による学会などを参考にして今後考えていけば良い。オンラインならば、パリ在住で現地のマラソン大会に実際に参加している知人にも話が聞ける。

また、オリ・パラ組織委員会の運営局次長の森泰夫氏の話聞くのも興味深い。森氏は横浜国大の陸上部員だったこともあり、最近もよく連絡を取っている。

(小林) 今後やってみたい内容、トピックについてはこれまで出た二つのように思うが、その他あるか？

(山本) 現在のコロナ禍でも様々な工夫をしてスポーツイベントを実施している団体もある。コロナ禍が終了した時を見据えて、そうしたイベントを主催している人の話を聞いてみたい。

(保原) コロナ禍でのスポーツイベントと言えば、オリンピックのマラソンが札幌で実施されたが感染者が出た話は聞いていない。

また、3月の名古屋ウイメンズ大会も同様である。現在の感染状況の現象面だけを見ると、中止にするしかないだろう。こうした状況下では免疫学の知見を利用しない限りスポーツイベントの再開は難しい。再開するためには成功事例を参考にしながら実施する必要がある。東京マラソンも再度延期(10月に延期し更に来年3月)になったが、延期理由に説得力がないように感じる。

(小林) 山本さんは現役の大学の教員なのでオンラインを利用した学会や会議が多いと思うが、やってみての感想はどんなものか？

(山本) 現在そうしたものは、ほぼ全てオンラインで実施されている。授業も70名とかの規模でやったこともあるが、どうして現場の空気感というものが共有できない。PCに向かって一方的に話す形になり、無機質に感じる。ある学会でノルディックウォークに関する講義をしたが、動画を撮り音声をいれてオンライン上にアップして視聴してもらうという形式であった。授業もこうした学会のプログラムも人数が多くなるとディスカッションは難しい。

スポーツはやはり空気感が大事。同じ空間で共に活動する事で生みだされるものがあるはずだがオンラインだとそれができない。

(保原) 私もそう感じる。だから最近時々見うけるバーチャルマラソン大会には違和感がある。決められた日時に各自で走ってタイムを申告するだけでは、多くのランナーと一緒に走りながらレースをする事とは大きな隔たりがあると感じる。

(黒田) オンラインでセミナーや講演会などのイベントを行う事については、人数に応じてやり方は色々ある。それについての技術的なことはノウハウがあるので任せていただいて大丈夫。こうしたイベントを計画した時には、誰に聞いてもらうのかという点が一番大事。そうした観点から考えると、オリンピック直後なのでマラソンの大迫選手とオリンピックの宇佐美さんの対談ならばたくさんの人を呼べるのではないかな。

(保原) 面白いアイデア。黒田さんには、提案者としてこのプランを是非ともコーディネートしてほしい。

ところで、日本陸連のダイヤモンドアスリートというプログラムだが、長距離選手に絞ってみると成果が出ていないようだ。これまで長距離選手は高松ムセンビさんが一人だけ選ばれているようだが、順調に育成できているかという点と疑問が残る。

陸上競技に限らず成果が上がっている種目ではハイパフォーマンススポーツセンターを積極的に活用しているようだ。しかし、長距離の選手は利用がないと伝え聞いている。そうした状況を見るに付け、東京オリンピックでも大躍進したウガンダの選手たちがトレーニングしているイタリアのトスカーナのトレーニング環境を紹介したいものだ。

それから最近はeスポーツもスポーツなんて話をよく聞く。IOCもオリンピック種目に入れようと目論んでいるようだが、あれはスポーツなのか疑問。

(小林) それについては森川さんに聞いてみましょう。

(森川) 私はeスポーツについては否定的だ。でも、現在のIOCは人々が関心を持つものなら何でもありという姿勢だから、オリンピック種目になるかもしれない。

(保原) 私はeスポーツにはオリンピック種目になってほしくない。あれは身体を使っていないから。

(森川) ゲームは脳皮質を使う。脳も身体の一部だからスポーツと考えているようだ。

(小林) そろそろまとめに入りたいので山西理事長に会議進行のバトンを引き継ぎます。

(山西) eスポーツに関していうと、「足が未来をつくる」という本があるが、現代の人間の生活は視覚がリードすることになってしまっている。そうではなく、足の文化の復活が大事だと書いている。

2004年に出版されたが、その頃から既にそうした事がいわれている。

それではまとめをする。今日は積極的にいろいろと発言していただきありがとうございます。今日の話を整理すると次回以降は免疫学に関わるテーマを鈴木先生の協力を得ながら聞きたい。また保原さんの提案したテーマや、本日出席者中いちばん若い山本さんに話してもらうのも良いかもしれない。更にはオリ・パラ組織委員会次長の森さんも、こうした小さな会合であれば話をしてくれる可能性があるのではないかな？フランスのマラソンに参加した人の話を聞くのもオンラインならこそ可能となる。我々の活動については、ただ話合っただけというのではなく、文字にして書き残すことが大事だと感じる。特に森川さんと宇佐美さんには大ベテランとして殿堂入りする前に大いに書いてもらいたい。本日のディスカッション内容については小林さんに

まとめて欲しい。

(文責：小林)

第6号議案 その他

■HPの整備・活用について

保原氏より、前回に引き続き下記項目の依頼があった。

ーオピニオンコーナー「～スポーツで世界がつながろう～マイ・オピニオン」への投稿。

今回のフリーディスカッションで話した内容などを原稿にまとめて投稿してほしい。

■次回理事会について

11月中に開催する予定だが、鈴木氏にお話し頂くことを前提に、日程を調整したいので、決定後連絡することとなった。

以上をもって議案全部の審議を終了したので、午後8時25分議長は閉会を宣言し散会した。

上記の議決を明確にするため、議長及び議事録署名人において下記に署名・押印する。

令和3年9月22日

特定非営利活動法人 日本市民スポーツ海外交流協会

議長

山西 正郎



議事録署名人

宇佐美 彰朗



議事録署名人

保原 幸夫

